

研究交流報告書

平成30年8月20日

上越教育大学長 殿

所属・職名 芸術系コース（美術）
氏 名 洞谷亜里佐

	期 間	旅行区間及び滞在地	研究機関
研究交流日程	H30年5月20日～H30年5月25日	台湾 (新竹・嘉義・台北)	清華大学 嘉義大学
研究交流テーマ	美術展覧会による国際理解について		
研究交流の概要 及び 研究交流の成果	<p>研究交流の概要</p> <p>清華大学にて協定校の交流展が5月14日（月）～5月26日（土）の期間開催されており、そのレセプション（21日）の参加と、10月の日本巡回展についての打ち合わせを行った。会場は旧新竹教育大の2ヶ所のギャラリーで行われ、レセプションには教員と在学生が30名ほど集まり作品を通して交流することができた。コース主任の蕭教授の案内で清華大学の本館を見学し、化学と学校教育を融合したユニークな学びによるアート作品を鑑賞し、スケールの大きさを感じた。清華大学には、9月中旬に上越教育大学の学生が短期研修としてお世話になるため、その日程と内容について調整を行った。</p> <p>嘉義大学では、協定校になって初めて美術教員と親睦を深めることができた。学生の授業風景の見学と、今後の交換留学生の受け入れについて話しあい、留学を希望している者がいることが確認できた。次回の短期研修での研究対象として、故宮博物館の南館を見学してきた。</p>		
研究交流の成果の還元に関する具体的な方策（今後の計画）	<p>新たな大学院コースと協定校とで可能性ある研究内容を探る点では、美術以外のコースと垣根を超えた研究を進めることにあり、その繋がりを期待したい。そこで10月に嘉義大学で開催される国際教育学会に参加する機会を得ることができた為、交流を深めるきっかけになればと思っている。</p> <p>美術作品交流展では、協定校の参加も増え教員同士も芸術教育が抱える問題点や可能性を、アジアという共通の文化から、共に考え発展させることが期待できると実感した。</p>		
研究交流中の感想又は希望等	<p>次回は、修了生が教員として活躍している、内蒙古民族大学での交流展を希望している。実物の作品を鑑賞することは、作家の生の息づかいを感じることができ学生の様子が感じられる。大陸の学生は力強くねちっこさがあるが、日本の学生は随分おっとりしているように感じた。</p> <p>9月の日本での国際交流展で、日本の学生の目にはどの様に映るのか大変楽しみである。</p>		

（注）記入スペースが狭い場合は、縦に広げて作成してください。